

4年B組 算数科学習指導案

日時：令和元年10月2日（水）5校時
場所：

授業者：

I 単元名

「2けたでわる計算」

II 単元について

1 単元のとらえ

本単元に関わって、小学校学習指導要領解説「算数編」には、下記のように明記されている。

- (3) 整数の除法に関わる数学的な活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
- (イ) 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
- (ウ) 除法について、次の関係を理解すること。
(被除数) = (除数) × (商) + (余り)
- (エ) 除法に関して成り立つ性質について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

児童は、2, 3位数及び4位数を1位数でわる計算原理や筆算を学習してきた。

本単元では、除数の数範囲を拡張して、2位数でわる計算を学習していく。ここでのねらいは、除法の意味の理解をより深め、除法の計算がより確実にできる能力を伸ばすことである。

2 児童の実態

レディネステストとして、既習単元の定着を調べるとともに、本単元で学習前にどの程度できているか調べるテストを行った。

結果から、既習の除法の計算は、九九やひき算の計算ミスを除けば、正しく計算することができる。

一方で、2位数×1位数の乗法の計算では、暗算でできる児童もいれば、計算のやり方忘れていた児童も多くいる。このことから、本時、筆算を解くときに、商を立てた後の乗法でつまづく児童がいることが予測される。

III 単元の評価規準

関心・意欲・態度	既習事項をもとに進んで考えようとしている。
数学的な考え方	既習事項や除法に関して成り立つ性質をもとに考える。
技能	2位数でわる除法を、正確に処理することができる。 除法の性質を使い、工夫して計算をすることができる。
知識・理解	2位数でわる除法の計算原理や、筆算の仕方を理解している。 除法の性質を理解する。

IV 研究の重点に関わって

研究テーマ

見方・考え方を働かせ、

数学的に考える児童を育てる指導の在り方

重点1 単位時間における数学的な見方・考え方と数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

① 本時大切にしたい数学的な見方・考え方の明確化
既習の方法で見当をつけた商が大きすぎることに気づき、修正すればよいと考える。

② 本時における数学的活動

既習の方法で見当をつけた商が大きすぎる際、商を消しゴムで消すのではなく、横に筆算を書き直すことにより、足跡が残る書き方をする活動。

既習の方法で見当をつけた商が大きすぎる際の修正の仕方を説明する活動。

重点2 数学的に考える児童を見届ける視点を明らかにした指導改善

① 実態を見届ける場面

レディネステストの結果や前時までの学習から、既習内容の理解度を把握する。

積がわられる数より大きいということは、商が大きすぎるからであることに、気付いているかを、黒板で示しながら、確認する。そして、商が大ききときには、どうすればよいかを考えさせていく。

② 学習状況を見届ける場面

筆算をする際に、計算の足跡が残る書き方をしているか、正しく商を修正しているかを見届ける。

ペア交流では、筆算の仕方を説明する際に、商が大きき時どうしたかに注意して聞くように声をかけ、ペアで見届ける活動をする。

③ 定着状況を見届ける場面

既習の方法で見当をつけ、計算の足跡が残る書き方をしているかを確認する。

正しく筆算を行い、答えを出すことができているかを見届ける。